

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「共生 協働 感謝」に基づいて、地域の方との交流し(中学、短大、運営推進)、ご家族の協力を得て、利用者一人ひとりが住み心地の良い暮らしが出来るよう、考えて支援している。	社は『共生・協働・感謝』と事業所理念、ケアの心構え『利用者本人の望む暮らし、病気や介護度による先入観のない個別対応、本人の生活リズムに応じたメリハリある暮らし、職員・家族・医療機関・地域との協働』を、日々の実践につなげる具体的な目標として取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の方のぶどう畑にて、ぶどう狩りをさせていただいたり、りんご畑にお花見に出かけたりしている。中学の職場体験の受け入れ、短大の実習、地域公民館での避難訓練への参加などを行っている。	地域との交流は運営推進会議の委員の協力が得られており、施設の隣のぶどう畑で葡萄狩りをしたり、野菜を頂いたりしながら食卓に提供しています。中学生の職場体験・短大生の実習受け入れ、地域の防災訓練で炊き出しなどに参加されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者が、中学校での認知症サポーター養成講座を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回実施し、ご利用者にも参加していただき、当事者の意見を伺う機会を設けている。今年は、地域の防災訓練にも参加することを決めた。	運営推進会議は2か月毎、対面で開催されています。ご家族へのお便りには、前回会議の内容や外部評価の結果、家族会で配布された資料や日常の様子、行事計画や実施報告など、細やかに伝わる内容になっていることを記録で確認いたしました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域運営推進会議を通して、ホームの取り組みを理解していただき、困難ケースについて市のケースワーカーを交えて、入居への支援を行った。	毎回の運営推進会議に出席を頂き、GHの取り組みを実際に見て頂いています。困難事例については市と相談しながら、入居までの見学から入所後の様子など、ご利用者と向き合いながら支援を行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修を実施し、具体的な行為を確認し合い、拘束をしないケアに努めている。	運営理念のケアの心構えに基づき、身体拘束はしないと決まっています。3か月に1回研修を実施して、職員は不適切なケアなど具体的な行為を確認し、原因も考えて共有しながら取り組んでいます。記録で確認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止についての研修を実施し、虐待につながる不適切なケアがなぜ起きるのかを考え、職員全員で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護について学ぶ機会を作っている。利用料滞納のご家族に対して、成年後見制度の活用について話したことがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	本人は認知症であっても、できるだけ入居への意思確認を行うようにしている。場合によっては、本人へ契約の説明を行い、自ら署名・捺印していただく方もある。家族に対しては、疑問にお答えし、納得の上契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	認定調査の際は、必ず家族に立ち合っている。その際、要望を伺い支援につなげている。ご利用者からは、食べたい物を聞いて、食事に反映している。面会時に要望を聞いている。	ご家族の面会の際(夏は木陰で、冬は換気を工夫)要望を伺っています。行事食を増やし、誕生日など、ご利用者の希望・食べたいものをキッチンカーなどを利用して提供しています。お便りには写真とコメントを入れて、ご家族に送っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議の時に、提案や要望を聞いている。物品購入や修理の要望には随時対応している。職員のやりたいことの提案も、リーダー会議を経て、実施につなげている。	職員全体の信頼関係があり、皆が明るいです。レク係のアイデアで、夏祭りのキッチンカーの利用や、職員のお国料理・得意料理の提供をしました。訪問歯科の開始、美容院での染毛をGHで出来るように考えるなど、職員の提案ややりがいを、実践に繋げる取り組みをしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	学ぶ機会を多く作り、学んだことが実践につながり、職員のやりがいになっている。職員の特技やアイデアが反映されている。子育てをしながら働ける環境(短時間正社員制度)がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月研修会に参加できる機会がある。法人内でも定期的に研修会があり、管理職が講師役になって行う研修もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍で外部研修は減っているが、オンライン研修などは参加できるようにしている。毎月、他の事業所と一緒に学べる機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	1つ1つの困り事は、本人と一緒に考えて信頼関係を作っている。本人からの要望を聞いて、家族と一緒に、ホームでの安心な環境を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス導入時のアセスメントに時間をかけている。また、入居後もこまめに様子をお伝えしながら、本人のために一緒にできることを考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時に口腔ケアについて心配されている方には、訪問歯科診療を提案している。全身の緊張による肩や腰の痛みがある方には、訪問マッサージの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	毎日の家事仕事(掃除、洗濯など)を一緒にしている。自分の部屋は自分で掃除できるよう支援をしている。行事の準備を一緒にしたり、お楽しみの時間は何をしたいのかを皆さんに決めていただき、職員も一緒に楽しんでいる。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	こまめに連絡を取り合い、職員と共に本人のケアについて考え、協力していただいている。衣類や物品の購入、受診等、必要に応じてテレビ電話などでお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ラーメン好きなお利用者に対して、コロナ前は外食に出かけたが、コロナ禍では、地域のラーメン屋さんにお願ひし、出張して作っていただいた。遠方の弟さんとの面会できるようご家族と調整した。	コロナ禍で外食や美容院へ行くなどが制限されていましたが、ご利用者のキーパーソンのお家族と相談して、地域で馴染みのお店が出張し、食事を楽しんで頂くことが出来ました。馴染んだ場所へ花見にお出掛けしたり、ご家族から依頼があった時は、面会もすぐ実現できるように、調整させて頂いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	「帰りたい」というご利用者同士で話をしている内に「ここ(ホーム)にいるか。」と、気持ちが変わる。職員が関わらなくても、毎日2人はこの会話を支え合い、安心している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されて病院で亡くなった方のご家族から、お礼の電話があった。ご家族に対して、精神的なフォローができた。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	カンファレンスの前に、ご利用者に暮らし方の希望や意向を確認している。普段の会話から、今思っていることなどを聞き、ケアに活かしている。	ご利用者の話を聞き、エピソードインタビューで困っていること、その日にしたいことなどをお聞きして反映させています。センター方式のアセスメント、月1回のカンファレンス、また未来日記ストーリーなど、話を聞いて記録に残し、共有して日々のケアに繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、ご家族から生活歴や家での環境、習慣などを、センター方式シートを活用してアセスメントしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	心身の変化があった時には、センター方式24時間変化シートを活用し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月カンファレンスの時間を設け、定期的見直しや随時変化時の見直しを行っている。その際、職員全員で評価し、意見を出し合っている。	毎月1回のカンファレンスとケア会議・ケア記録を基に、3か月に1回の介護計画の見直しの際に、本人やご家族から意向を伺い、職員全員で評価を行って、先に繋がるように意見を出し合い反映させています。個別介護計画書で確認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録、申し送り記録に日々の様子を記入して、職員間で共有している。必要に応じて、会話の記録も残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者によっては、自分の住環境を自分で作りたい方があり、制限するのではなく、本人の意向に沿えるなど柔軟に取り組んでいる。また、病気により医療が必要になった場合も、医療保険での訪問看護の導入を考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍では、地域へ出かけることが難しくなったため、新たな開拓をした。地域からの出張可能なラーメン屋、地域のスーパーマーケットでネットショッピングが可能な店、キッチンカーなど豊かで楽しい暮らしに活用している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医とは開所以来協力関係にある。協力医療機関以外にも、当番医への受診や、整形外科、皮膚科、精神科など家族と相談して専門医にしている。	ケアの心構えの基本に、協力医療機関・地域との協働を掲示しており、開所以来、協力医に受診と往診をお願いしています。その他、専門医への受診、定期的な訪問看護もあり、医療機関との連携はしっかりと確保されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションと協力体制を取っている。定期訪問の他に、随時変化がある都度、連絡して相談や訪問をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した病院とは医療連絡室相談員や退院支援看護師と早期から退院に向けて話し合い、本人や家族の意向を伝え、退院を支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師、訪問看護師、家族を交えて話し合いを行う。本人の意向を大切に、ホームでできる終末期について理解できるよう、何回でも説明し、ご家族に安心してもらいながら、共に支援している。	入所時に看取りに関する説明と意向を伺い、契約をされています。2～3人のお看取りがある年もあります。ご本人の意向を大切に、受診・往診時・訪問看護師などと職員がチームになり、ご家族と何回も話し合い、共に安心して支援に当たれるようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	いつもと違う、急変を見逃さず対応している。急変時フローチャートを各ユニットに掲示し、慌てないようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	1年に1回は、地域の方と避難訓練を実施している。火災、地震、停電や断水などを想定し、訓練を実施している。ご利用者の避難順を毎年更新している。	地域の皆さん、消防署の立会いの下、避難訓練・消火訓練・避難誘導を、年1回実施しています。区長・消防団分団長・交番所長、地域のボランティアは運営推進委員会に出席して頂いており、連携が来ています。11月の訓練では、炊き出し訓練のご飯で昼食を用意し、屋外の防寒対策をして参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりに合わせた声かけや、ゆっくり話を聴くことに努めている。本人の話を否定することなく傾聴する。排せつなどは周囲の人に聞こえないよう配慮している。	利用者の個人記録シートを活用し、一人ひとりに合った声掛け、話を聞く姿勢を大切にしています。入社時の研修で利用者の人格と誇りを尊重し、プライバシー保護の良い事例を伝達しています。外国人スタッフも日本に来て4・5年ほど、読み書きも翻訳なしで出来るレベルになっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員に話しかけやすい雰囲気作りをしている、選択できるように声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のやりたいことを優先にして、無理強いをしない。コロナ感染時など、職員体制が整わない状況では本人の希望に沿えないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類は好みの物や丁度合うサイズの物を、ご家族にお願いしている。必要に応じて、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	畑から、きゅうりやなす、トマトを収穫したり、枝豆を枝から取っていただく作業をしている。一緒に漬物作りをしている。食器洗いや片付けも行っている。	行事食を増やし、キッチンカー利用・ハロウィン喫茶など工夫をされています。施設の前庭に畑があり、夏野菜などを作って収穫も随時しています。前役員の畑で作られた大根や白菜を利用者と漬物にして、食卓で楽しんで頂き、片付け・食器洗いなど出来る方は一緒にやって頂いて、日常にメリハリをつけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量を確認し、必要な栄養が摂れているか確認している。ペースト食でも必要な栄養を確保できるように工夫している。お正月、お盆などの季節に合わせた食事の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは毎食実施している。介助が必要な方には、個別に支援している。また、異常があればご家族と相談して、訪問歯科の検討をしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	できるだけ自力排せつができるように、本人の排せつリズムを把握し、トイレに座っていただいている。本人が排せつしたいタイミングで誘導を試みている。	食事量・水分摂取量、排泄のパターンを24時間シートの個人記録などで把握し、朝夕などじっくり座るタイミングを設けています。レクリエーションで、歌う・体操で身体を動かすなど、日々の積み重ねで自立支援に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取のために、好みの飲み物(お茶だけでなく、スポーツ飲料、ジュースなど)を選んでいただき、積極的に勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	活動時間の中で入浴できるように時間の変更をした。以前は午睡時間に入浴の順番になってしまうことがあった。それでも、本人が入りたくないときは、無理をせずに後日している。	使い勝手が良い様に、脱衣室の床暖房や、身体機能の低下した方にはリフト浴も整えられています。午前2人・午後1人が入浴できるように、また、午睡の必要な方にも配慮して順番を決めます。入りたくない時は日をずらして柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	テーブル席で伏せている方、疲労感が見られるが、自分で休むタイミングが決められない方には、声かけして居室で休んでいただいている。「起きる時には声をかけます。」と声をかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書、個人の服薬内容については申し送りノートを活用している。頓服薬については、使用の記録と残薬を把握している。下剤など使用後の状態の記録をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人のできること、できないことの中から、役割(掃除、テーブル拭き、花の管理など)を考えて行っている。季節に合わせた行事を行い、ビールが好きな方には特別な日に飲んでいただき、喜ばれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	庭へ自由に入出入りできる。自ら運動をする方、花を摘んで来る方がある。季節や天気を見てドライブに出かけたり、地域の方の畑へお花見やぶどう狩りをさせていただいている。初詣に毎年出かけている。	初詣のドライブから始め、桜・バラの季節などは周辺の公園に出掛けて楽しんでます。施設の前庭は日当たりの良い場所に野菜が植えられ、ケヤキとヤマボウシが木陰を作り、自由に庭に入ることができます。薄川堤防の花見、リンゴ畑の花見、ぶどう狩りなどドライブがてら楽しんで頂いています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望で、財布を所持している方がいる。希望される物は、ご家族に相談して購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を持っている方がいる。ご家族から使用回数が頻回だと言われた際には介入する。間に入ることで適度な連絡に落ち着いた。その他の方も、必要に応じて「電話しましょうか。」と声かけをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	暑さ寒さには、本人の意向を聞きながら調整している。季節の飾り、イベントの写真などを掲示しているので、自分の写っている写真を見て、喜んでいる姿がある。畳に座布団、ソファなど、居室以外でもくつろげる場所がある。	2ユニットは中廊下を挟み、自由に行き来が出来ます。共有空間は床暖房で、窓が大きくて明るい。利用者の動き易さを考えて机や椅子の配置をしており、オープンキッチンは動線に配慮されています。壁に皆さんの作品、イベント時の写真なども飾られ、室温も適温に保たれた居心地の良さがありました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下のベンチ、ソファなど思い思いの場所で自由にされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使っていた物を持って来ていただいたり、好きな猫の写真やカレンダーを貼ったり、自分が書いたメモ用紙を壁に貼ったり、それぞれが自分の部屋として安心できるように配慮している。	居室は備え付けのクローゼットの他は、ベッドの位置も自由に変えられます。自宅で使用していたもの、ご家族が用意してくれたものなど、好きなものに囲まれてレイアウトは自由です。携帯やスカイプを利用するなど、ご家族との交流も自室で取れるように配慮されていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自力でトイレへ行ったり、着替えをしたり、動きやすい動線を作るように努めている。また、物品に手が届くようにして、安全への配慮をしている。		